

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 18件(前月比0.1、前年比9.0)でした。2月をピークとして連続して減少し、前月比は0.1と著明に減少しています。前年比は9.0であり本年度は昨年よりも多い値で推移していますが、今後は例年通り終息していくと推測されます。

小児科定点

(全体傾向) 2,996件(前月比0.8、前年比0.4)でした。ヘルパンギーナ953件(前月比1.6、前年比0.7)と感染性胃腸炎940件(前月比0.6、前年比1.3)が大きく占めています。前年比の減少は、手足口病71件(前月比1.8、前年比0.02 ※昨年は4,539件)、ヘルパンギーナ953件(前月比1.6、前年比0.7)、流行性耳下腺炎153件(前月比1.1、前年比0.4)、水痘142件(前月比0.7、前年比0.6)の影響を受けています。咽頭結膜熱104件(前月比1.1、前年比1.6)、A群溶レン菌咽頭炎214件(前月比0.6、前年比1.3)は例年より多いようです。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 1件(前月比0.5、前年比-)でした。4月から著明に減少し、以後は例年通りに少ない値で推移しています。
2. 咽頭結膜熱: 104件(前月比1.1、前年比1.6)でした。前月比は大きな変化を認めませんが、前年比は1.6であり、例年よりは多い値で推移しているようです。菊池(9.3)が特に多いようです。
3. A群溶レン菌咽頭炎: 214件(前月比0.6、前年比1.3)でした。5月をピークとし、以後は連続的に減少しています。例年よりは多い値で推移しているようです。
4. 感染性胃腸炎: 940件(前月比0.6、前年比1.3)でした。1月をピークとして以後は連続して減少しており、例年並みに推移しています。一定点当たりの患者報告数は、有明(46.2)、山鹿(34.5)、菊池(28.0)が特に多いようです。
5. 水痘: 142件(前月比0.7、前年比0.6)でした。5月からは連続的に減少しており、例年通り夏期に少なくなっています。例年よりは少ない値で推移しているようです。
6. 手足口病: 71件(前月比1.8、前年比0.02 ※昨年は4,539件)でした。昨年は大きな流行を認め、7月をピークとしていました。本年度は、前月比は増加しているものの、例年よりは著明に低い値で推移しており、大きなピークは認めていません。一定点当たりの患者報告数は、菊池(5.8)、山鹿(5.0)が多いようです。
7. 伝染性紅斑: 13件(前月比2.2、前年比0.3)でした。本年度は例年よりも低い値で推移しています。
8. 突発性発しん: 162件(前月比0.8、前年比0.8)でした。例年と大きな変わりはなく推移しているようです。

9. 百日咳： 1件(前月比1.0、前年比1.0)と少ない値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ： 953件(前月比1.6、前年比0.7)でした。5月から連続して増加しており、例年通り夏期にピークを迎えそうです。昨年よりは低い値となっています。一定点当たりの患者報告数は、菊池(47.8)、天草(43.8)が特に多いようです。
11. 流行性耳下腺炎： 153件(前月比1.1、前年比0.4)でした。本年度は例年より少ない値で推移しているようです。一定点当たりの患者報告数は、天草(14.5)が特に多いようです。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告数1件(前月比—、前年同月0.5)熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎： 報告数81件(前月比1.4、前年同月1.6)と増加しています。地域別では熊本68件、菊池6件、有明6件、天草1件の報告です。年齢別では20～29歳にピークがありますが、先月同様、3歳を中心に幼児にも散発していますので今後も注意が必要です。

STD定点

1. 性器クラミジア感染症： 報告数 42件(前月比 1.0、前年比 0.8)で、前月比は同数で、前年比は減少しています。男女別は、男性10件、女性32件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は20～44歳に見られ、女性は15～34歳に多く見られます。地域別は、熊本が31件、次いで御船、宇城各5件、有明1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：
報告数 11件(前月比 1.1、前年比 0.7)で、前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性3件、女性8件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は35～54歳、女性は25～70歳以上に見られます。地域別は、熊本が10件、八代1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数 8件(前月比 1.3、前年比 1.3)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性2件、女性6件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は15～19歳と45～49歳に各1件、女性は15～34歳に見られます。地域別は、熊本が5件、御船、八代、宇城各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数 6件(前月比 1.0、前年比 0.4)で、前月は同数で、前年比は減少しています。男女別は、男性が5件、女性1件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は25～49歳に、女性は20～24歳に見られます。地域別は、熊本が5件、宇城1件でした。

基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 2件(前月比2.0、前年比—)の報告がありました。人吉1件、有明1件で、年齢は5～9歳:1件、55～59歳:1件でした。
2. 無菌性髄膜炎： 4件(前月比1.0、前年比1.3)の報告がありました。熊本4件で、年齢は10～14歳:1件、15～19歳:1件、25～29歳:1件、35～39歳:

1件でした。

3. マイコプラズマ肺炎: 14件(前月比1.2、前年比2.0)の報告がありました。熊本6件、阿蘇1件、人吉3件、有明3件、天草1件で、年齢は0歳:1件、1~4歳:2件、5~9歳:6件、10~14歳:4件、30~34歳:1件でした。
4. クラミジア肺炎: 2件(前月比一、前年比一)の報告がありました。熊本2件で、年齢は5~9歳:2件でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:

46件の報告があり(前月比0.9、前年比0.8)ました。熊本地区から35件(76.1%)、山鹿4件、阿蘇1件、八代2件、人吉1件、有明3件でした。年齢は高齢者(70歳以上)が多く30件(65.2%)認められます。また、0歳:2件、1~4歳:2件、40~44歳:1件、50~54歳:2件、55~59歳:2件、60~64歳:3件、65~69歳:4件でした。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:

7件の報告があり(前月比一、前年比7.0)でした。熊本2件、八代1件、人吉1件、有明3件で、年齢は0歳:1件、1~4歳:3件でした。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症: 報告はありませんでした。

4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:

報告はありませんでした。

届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:27件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:5件
- 4類感染症: 日本紅斑熱:2件
レジオネラ症:1件
- 5類感染症(全数把握): クロイツフェルト・ヤコブ病:1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症:2件
後天性免疫不全症候群:1件
バンコマイシン耐性腸球菌感染症:1件